

櫻井義肇 さくらい ぎさく 雑誌編輯者。明治元年十月十六日攝津國豊中生れ、

大正十五年七月二十日歿（六六—九三）。京都曲木願寺普通教校文學

寮教授兼会監。明治十九年教校内の反省會が結成せられ、翌年機關誌

『反省會雜誌』（二十五年『反省雜誌』と改題）を創刊、編輯同人と

なり、二十二年の主要同人の高楠順次郎が外遊、また古川老川が病を

獲て歸郷後は殆ど一人で編輯に當つた。三十年發行所が東京に移つて

からは編輯主任、二十一年誌名を『中央公論』に改題後も實際の編輯

に携はつてゐたが、十一月大谷光瑞と共に歐米事情視察に出發。二十

六年高輪佛教大學京都移轉問題を巡つて光瑞と對立、『中央公論』を

退いて翌年雜誌『新公論』を創刊した。誌の命名は巖本善治、編輯員

には杉村滋横（楚人冠）、高嶋米峰、青柳有美等が名を列ねた。

